

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 5 月 10 日

事業所名 放課後等デイサービス くりむうさぎ・守口

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88%	13%	療育内容・児童数での療育ルーム分化	3密回避基本に児童・指導員配置を適正化、備品等収納改善
	2 職員の配置数は適切である	75%	25%	個別指導児童での配置に工夫	送迎添乗・個別支援の徹底での要員配置(専門職配置)
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	整理整頓徹底	フラットな形状の建物構造:利用頻度の高いトイレ・療育ルームは安全確保優先
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	13%	個別支援計画作成(詳細)指導員MT開催	月次スタッフ会合実施(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	個別支援計画・行動計画をベースに保護者懇談開催	保護者懇談以外に個別懇談・連絡帳ベースにダイレクトTEL等で内容把握に繋げていく
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページ掲載・保護者配布継続	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	グループ内他事業所評価を参考	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	63%	38%	行政主催の研修・情報収集はリモート参加	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	日々の個人記録・行動計画表を軸に指導員MT開催	児童発達支援管理責任者の司会による指導員MTでの情報収集・意見集約・療育計画策定の流れ
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	相談支援からの基本計画に応じて個人記録活用	標準化されたアセスメントツール未適応(最適模索)
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	児童指導員リーダー主導で年間月次プログラム策定	新イベント拡大(外部)・施設内プログラム刷新・うさぎ通信発信
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	88%	13%	ワークシステム導入での就労環境適応	ワークシステム拡充(低学年対応)・PC操作・タッチング導入
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	マンネリ化打破	平日:音楽・書道・お絵描き・工作・PC、休日:水泳・料理・クラフト教室開催。外部イベント積極活用
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	基本的にはスケジュール優先	利用予定提出後のスケジュール調整
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	63%	38%	平日は支援前MT・休日長期休暇は週単位	非常勤スタッフとのMT機会増やす
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	88%	13%	個人記録記載後、翌日情報共有	非常勤スタッフとのMT機会増やす
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	個人記録・ヒヤリハット報告書記載徹底	ヒヤリハット報告書の記載・情報共有・対策立案
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	相談支援連携・モニタリング活用		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	88%	13%		基本情報を基に適正に組み合わせ(精度アップ)	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	88%	13%	基本リモート対応	児童発達支援管理責任者と児童指導員リーダー適時参画
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	88%	13%	基本的に保護者利用予定提出時に対応	保護者経由とダイレクト併用(学校からの予定が遅れ気味で対応に苦慮)
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	63%	38%		保護者経由
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	63%	38%		相談支援・保護者からの情報提供
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	相談支援経由	相談支援経由で情報提供:就労移行支援事業所
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		積極的に発達支援センターと関係強化
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	38%	63%		現状は積極的ではなく、リスク管理重視
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		現状は積極的ではなく、リスク管理重視
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳・送迎時、メール等活用	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	63%	38%	保護者懇談活用	個別支援計画説明時に随時対応(ペアレント・トレーニング重要)
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	重要事項説明書にて契約時徹底	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	個別面談時	機会増を図る方向。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		次期保護者懇談会開催予定(保護者連携・情報共有)
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	基本的に対応している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月次うさぎ通信発行	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	スタッフ共有	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	リスク管理重視	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	研修会開催	BCPと並行実施
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的実施済み	非常持ち出し袋配布・回収
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	研修会開催	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	25%	研修会開催	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	保護者経由医師の指示	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	基本的に都度対応	